

まなぶだより

和歌山県教育センター学びの丘 広報誌



学びの丘イメージキャラクター
まなぶ



学校を動かすストーリーを！ ～新任校長研修①～

教育センター学びの丘では、新任校長及び新任教頭を対象に「校長・副校長・教頭・主幹教諭及び主任等に求められる資質・能力に関する指標」に基づき、管理職の職務及び学校における諸課題について理解を深め、管理職に求められる資質、学校経営能力の向上をめざす研修を実施しています。

令和2年度新任校長研修①プログラム	
午前	県教育委員会教育長講話 教職員課長講義「校長の職務について」
午後	講義「校長としての心構え」 大阪体育大学 教授 岸田 正幸 氏

7月7日（火）に実施した新任校長研修①では、大阪体育大学 教授



岸田正幸 氏を迎え、「校長としての心構え」についての講義がありました。岸田教授からは、「覚悟を決めよ」「学校を動かすには、人を動かすストーリーが必要だ」という熱いメッセージと力強いエールをいただきました。

年度当初から、新型コロナウイルス感染症拡大防止対応等で数々の判断を迫られてきた受講者にとって、校長としての職務を再確認するとともに、自らの学校経営への意欲を高める機会となりました。



ミドルリーダーとして活躍するために ～中堅教諭等資質向上研修～

中堅教諭等資質向上研修は、教育公務員特例法において、教員個々の能力や適性に応じて、教員評価を基に校長が研修計画を立て、職務を遂行する上で必要となる資質・能力の向上を図るための研修として位置づけられています。

共通研修1で教職キャリアを振り返り、7月から8月にかけて実施した共通研修2、3で扱う「生徒指導」「授業改善」「危機対応」の3つのテーマを基に、ミドルリーダーとして各学校で校内研修会を運営するという取組が、本研修の核となる部分です。

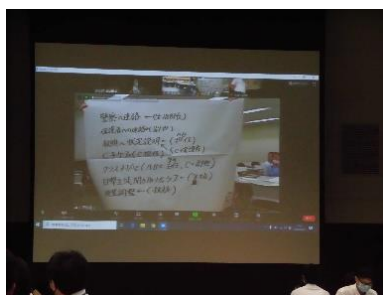
中堅教諭等資質向上研修対象者が、職場の同僚性や協働性を高め、所属校の中核として、本県教育の活性化に貢献してくれることを期待します。



共通研修2「授業改善」について協議



共通研修3「危機対応」について
大阪教育大学 瀧野教授による講義



共通研修3 オンラインで会場間の
協議内容を共有



共通研修2「生徒指導」について事例検討



自閉症・情緒障害特別支援学級における算数科授業づくり ～研究団体と連携した指導主事派遣事業の取組より～

今年度、当センターは、市町村教育委員会や研究団体等と連携し、教科等の指導に係る課題解決に向けて研究を進めています。

ここでは、連携研究の1つである、田辺市特別支援教育研究会との取組について紹介します。近年、和歌山県では、特別支援学級に在籍する児童生徒の増加に加えて、経験年数の浅い教員が特別支援学級を担任するケースが増えています。そのため、異学年の児童生徒と一緒に学ぶ特別支援学級における算数科の授業づくりについて、研究会員の教員と一緒に研究し、その成果を県内に普及していこうと考えています。

研究会は全5回を予定しています。第1回、第2回の研究会では、授業づくりの基礎・基本となる部分（教科書の構造や授業づくりのステップ、複式授業をアレンジした授業展開、障害特性に合わせた課題設定等）を具体的な教材を扱いながら確認しました。第2回研究会では、提案した授業構成表（仮称）を基に、3つの学年にわたる児童と一緒に学ぶ算数科授業の1時間の展開を具体的に検討しました。

3回目以降は、各教員が自身の学級で研修内容を取り入れて授業実践を行い研究を進めていきます。

第2回研究会（令和2年8月27日）の様子



《参加者の感想》

- 教科書を、今日の研修の見方を使ってじっくり読んでみようと思います。また、学んだことを同僚の先生にも伝えようと思います。
- 複式形態を取り入れた授業計画は普段から考えているが、児童の実態によっては、間接場面の学習活動を考えることが難しいと感じていたため、どんなことをさせればよいかを教えていただけてよかったです。
- 直接指導と間接指導の配置がとても難しいと思いました。3学年分の授業の進め方を考えるのは初めてでした。構成表があれば、どの学年に直接指導をして、間接指導をするのがかすくにわかるのでとてもよいと思いました。



見方・考え方を働かせる国語科授業づくり ～小学校・中学校国語科授業研究会の取組より～

本研究会には、印南小学校の4名の教員と印南町内中学校の国語科担当の教員4名が参加し、新学習指導要領の実施に当たり、小中連携を重視した小学校・中学校国語科の効果的な指導方法について研究を進めています。和歌山信愛大学 教授 小林康宏 氏の指導助言を基に、小学校と中学校の教員が協働し、「見方・考え方」を働かせる国語科の授業づくりを行っています。

研究内容は、単元・授業のゴールを見据えた授業づくり、その単元で働かせる「見方・考え方」の明確化、1時間の授業で働かせる「見方・考え方」を児童生徒に意識させる発問等に重点をおいています。

また、働き方改革を鑑み、研修時間の短縮と内容の充実を図るための事前視聴動画を活用しながら進めること、研修の在り方についても研究しています。11月には、小学校で提案授業公開をし、成果を県内に普及していく予定です。

小学校・中学校授業研究会の様子



《研究会メンバーの感想》

- 新学習指導要領でも深い学びの鍵となる見方・考え方を働かせることの重要性が書かれており、今後我々が取り組んで行かなければならないことだと思うから、「見方・考え方を働かせる」がキーワードだと感じました。研究会を通して私たち教師も見方・考え方を働かせていかなければいけないと思いました。
- 講義では帰納法や演繹法、また思考のスイッチ等、自分が普段したことのない学習方法を教えていただいたので大変参考になりました。また演習では教科書にある教材を使って1時間の授業の流れを考えるなど、すぐに役立つような活動ができたのが良かったです。
- 教科書を見ながら動画を視聴させて頂きました。教科書のどこにどんなことが書かれているのか、また学習の流れなどがよくわかりました。

事前視聴動画③ ～教材研究のポイント～

令和2年度 小学校・中学校国語科授業研究会 事前視聴動画③

教材研究のポイント



教育センター学びの丘 研究開発課



種類：タブレット端末で撮影した動画
時間：8分7秒
内容：小学校国語科説明的文章「すがたをかえる大豆」を用いて、その学習のてびきに沿った教材研究のポイント
研修とのつながり：授業づくり演習の時間短縮と充実につなげる

学習支援動画提供に係るご協力、ありがとうございました。

提供いただきました学習支援動画は、学び丘ウェブページの「まなびサポート」（動画・教材リンク集）の中に掲載させていただいております。

今後、提供いただける学習支援動画がありましたら、下記担当まで連絡ください。よろしくお願いいたします。

担当：草羽 信幸【研究開発課 [Tel:0739\(26\)3494](tel:0739263494)】

